

多賀町立たきのみや保育園

日時：2013年11月26日（火）13:30-17:00

2013年12月5日（木）9:00-16:00

場所：犬上郡多賀町富之尾 1586-5

滝ノ宮神社に近い小さな保育園。社寺林、川、滝、森の紅葉と周りには美しい自然があふれています。下見とプログラム作り時は風が吹き、秋から冬に向けてとても寒い状況で、寒さをどのようにプログラムで活かすかを考えました。本番時は、日向と日陰との気温差があり、子どもたちは日差しの暖かさと日陰の冷たさを感じることができ、研修を活かし気候に恵まれた研修でした。

（対象：3歳児、4歳児、5歳児 計12名）

1日目は講座、下見とプログラムづくり、2日目は作成したプログラムの実践とふりかえりです。講座の一部を紹介します。 講師 島川武治（しまっち）さん

これまでとこれからの自然体験・・・

- ・目的地優先型となる公園や森へのお散歩や、ドングリや草花を使った創作活動、飼育栽培が主となっていました。しかし、自然の中で思いっきり遊んだり、自然を感じる保育は？となるとほとんど実施されていませんでした。
- ・これからは、豊かな感性、いのちの尊さ、地域の自然を大切に思う、生きる力を育むというねらいを持って保育を実施する必要があります。（新うおーたんの自然体験プログラム P4 より）



タカノツメの葉っぱの甘い香りをかいだり、ツバキの花を鳴らしたりしました。



気に入った木にひっついて、じっくり5分間。動の活動後には、静の活動も行いました。

巻物発見！！～木にかこまれて忍者修行～

森に出かけると、謎の巻物を発見。巻物の指示に従って、葉っぱの冠をつくり、忍者修行を行いました。枝を飛び越え一本橋を渡る「えだとび修行」、木の間をジグザグにタッチして走る「たちらん修行」、木の下をくぐる「くぐりぬけ修行」。そしてグループで木を抱っこしたり、じっくり音を聞いたり動から静の活動となりました。最後に見つけた巻物からは、ご褒美のキラキラ手裏剣をもらって、忍者修行が完了しました。



巻物を発見して、やる気満々の子どもたち。ドキドキしながら巻物を読んでもらいました。

「くぐり抜け修行」、木のトンネルに体を当てないように、上手にくぐり抜けられるかな？



「えだとび修行」、枝をびよんびよんジャンプした後は、一本橋にチャレンジ。みんな上手にできたよ



グループで木に抱っこ。「カリカリや、冷たい、ふかふかもある」音を聞くと「ドクドク、ゴロゴロ、ゴー」の音が聞こえるよ



森のくまさんの冬ごもり

突然、森のくまさんが登場！くまさんはとても寒がっています。森の中で暖かい場所を探していた子どもたちは、くまさんに暖かいお家をつくってあげました。個性あるお家が出来上がりました。まとめでは、クマや野生動物が冬には、毛が生え変わり暖かくなることをお話しました。



「寒いよ、寒いよ」とくまさんが登場。子どもたちはくまさんを助けようと一生懸命になりました。



枝と葉っぱを組み合わせてつくりました。

暖かくするために、屋根をつくりました。みんなが入れるほど、大きいお家でした。



大きな朴の葉っぱを集めて、葉っぱのお布団を作りました。入ってみると本当に暖かいお布団でした。

子どもたちの変化や様子

- 通常の保育時から散歩に行っている子どもたちですが、森の中でのプログラムによって、普段の子どもたちと異なる様子が見られました。
- 普段パニックになりやすい子どもがとても穏やかで、年長児の動きをまねて自ら活動していた。
- 普段コミュニケーションをとっていない子ども同士が、よく会話していた。
- 普段の遊びでは気が散りがちで1つの遊びに集中しない子どもが、集中して遊びを続けていた。
- 人前での発表が苦手な子どもが、スラスラと自分の言葉で話していた。



プログラムを終えてのふりかえりから

- 一つ一つの自然に触れて、感じることをしていなかった。これからの保育で実践したい。
- 普段の保育では「先生がやったんや」と話す子どもが多いが、森の体験では子どもと保育者が一緒に見つけたりすることで、子どもの興味が高まり世界に入り込んでいた。ふざける様子がなく、真剣であった。
- 森の魅力を感じていたが、どのように展開してよいか分からなかった。研修と実践で、子どもが一つ一つの木に目を向けるようになった。もっとたくさんの自然に目を向けていけるようにしたい。